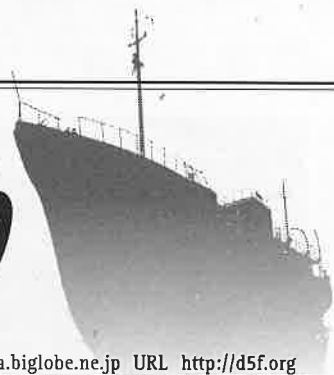


都立 第五福竜丸展示館ニュース

2006.01.01
No.326

福竜丸だより



発行：財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島3-2 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail:fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL <http://d5f.org>

第五福竜丸展示館開館三〇周年

原水爆のない未来へ航海はつづく

財団法人第五福竜丸平和協会会長 川崎昭一郎



写真でたどる開館30年のあゆみ

保存の声を広げるため、さまざまな取組みが行われた。たこ揚げ大会は一九七三年一月から一九九〇年まで開催された。写真は七四年一月

撮影・森下一徹

明けましておめでとうございます。

今年には都立第五福竜丸展示館が開館してちょうど三〇年に当たります。開館記念日は六月一〇日です。

この三〇年間に展示館を来訪された方は、のべ四二〇万人に達します。

展示館の中に、死の灰を浴びた第五福竜丸の実物が、人々が見、感じ、心に刻むことができる状態で存在することは、単に書物や映像を通して触れ、理解するのとは格段に違った意味を持っています。

今では、東京・夢の島に展示館があるのは当たり前のごとくに思われるかも知れませんが、何十年も前に、明確な展示場のイメージすら描けない段階で、原水爆禁止の実現を将来の世代に託して福竜丸を何としても保存したいと願い心血を注いだ人々、心を打つエピソードを残していった熱血漢が何人もいたのです。

世界に二つとない水爆被災船の展示館ですが、同時に、日本の文化と伝統が誇る木造船技術の粋を垣間見させてくれる点でも重要な施設です。

三〇歳を迎えた展示館をこれからも大切に、つねに新たな息吹を吹き込みながら有効に活用していきたいと考えます。

私も財団法人第五福竜丸平和協会の役員一同、ボランティアの会のメンバーともども決意を新たにしています。

皆様のご健康とご発展をお祈りするとともに、私どもの事業に対する変わらぬご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

メッセージ発信しつづける 第五福竜丸によせて

桂川 秀嗣

奇跡の年から100年

大学で物理の授業を担当している私にとってこの一〇年は低学年の物理の講義で、毎年一〇〇年前の今年という話題に事欠くことがありませんでした。たとえば、今年には、X線の発見（レントゲン：1895）から一〇〇年とか、放射能の発見（ベクレル、キュリー夫人ら：1896）、電子の発見（J.トムソン：1897）、量子仮説（プランク：1900）など、現代の科学に不可欠な要素が一〇〇年前の今年という話題



桂川秀嗣さん

を提供してくれました。

その中でも二〇〇五年は特別な年だったと思います。一九〇五年、スイスの特許局に勤める、未だ無名だったアインシュタインが現代物理学に大きな影響力を今でも与え続けている、「光電効果」「特殊相対性理論」「ブラウン運動」の三つの論文を一年のうちに発表した年だからです。物理学者はこの年を奇跡の年と呼び、国連は二〇〇五年を「世界物理年」と決議しました。日本では世界物理年日本委員会が中心になって一般向け、青少年向けに様々なイベントが企画され今も続いています。私も講義で、この奇跡の年を授業を盛り上げる題材として利用させていただいた。

科学技術の進歩の光と影

しかし、現代物理学を基礎

においた科学と技術の発展は物質的な豊かさをもたらすことには成功しましたが、同時に人類に残した大きな負の遺産は二一世紀に引き継がれています。科学・技術の進歩は二〇世紀前半に二度の世界大戦を経て核兵器を生み、東西冷戦のなかで開発競争を激化させる最悪の事態が到来しました。また、科学・技術の発展はエネルギー利用の飛躍的な拡大を生み、地球環境の循環システムを深刻なものとしていいます。私は現代物理学誕生とその後の発展については講義しますが、それがもたらした負の影響の部分はあまりにも広範に及び、同時に講義するには大変な困難さを実感しています。また日本は「科学技術創造立国」を標榜していますが、他の先進国同様、あるいはそれ以上に若い世代の科学と技術に対する関心は年々低下する傾向にあります。人類が二一世紀に残した負の遺産をどう解決するかという科学・技術の開発こそ求められています。若い世代のこの現状は憂慮されます。

ラッセル・アインシュタイン宣言から50年

一九五四年水爆実験によって第五福竜丸が被災し、乗組員が被爆したのは、一九四五年のヒロシマ、ナガサキへの原爆投下による被爆に続く人類にとって三度目の核兵器による犠牲でした。それから今年で五二年、その生き証人のような第五福竜丸がその奇跡と思える数奇な運命を辿って、展示館に保存されています。これをここに残したのは人々の努力と善意と叡知としか言いようがありません。第五福竜丸が被災した水爆がどのようなものであったか、その秘密を解明したのは日本の科学者でした。この経緯は本紙NEWSにラッセル・アインシュタイン宣言五〇年を記念して平和協会が主催した講演会での小沼通二さんの記念講演に詳しく述べられています。この宣言は五〇年前の一九五五年にラッセルとアインシュタインが世界に向かって核兵器の恐ろしさを警告し、国際紛争を戦争以外の手段で解決しよう呼びかけた宣

言です。この宣言が契機となって国連や各国政府にさまざまな提言が行われてきました。しかし、第二次世界大戦後止むことのなかった核軍拡競争は冷戦が終結しても核兵器の廃絶への道は未だ先が見出せず、戦争の日常化と紛争の激化、テロの恐怖が今日の世界を覆っています。

第五福竜丸はいまも訴える

「福竜丸だより」に載せられる多くの来館者の声や修学旅行の生徒らの若い世代のメッセージを拝見しますと未来への期待が膨らみます。第五福竜丸が二一世紀の人类的課題へ核兵器と戦争の廃絶を訴え、来館者の声を通して、メッセージを発信し続けているように思います。今年には第五福竜丸展示館開館三〇周年を迎え、計画されている特別展や記念コンサートなどが成り功し、平和への新たなメッセージの発信とならんことを祈ります。（かつらがわ ひでつぐ／東邦大学理学部教授、レーザー物理学、原子・原子核分光学、〇五年より第五福竜丸平和協会評議員）

展示館オープンのころの思い出

鹿田敏彦



鹿田敏彦さん

確か一九七五年の暮ではなかったかと思うが、当時夜学に通いながら「劇映画はだしのゲン上映実行委員会」の専従として、ロードショー終了後の残務処理をしながら、次の仕事を探していた僕のところへ、東京原水協の小島理事長から「平和協会が募集しているよ」と声がかかり、年明

け早々だったと思うが、当時都庁近くの有楽町の新幹線ガード下にあった都労連書記局に、机を置いて事務所にしていた平和協会の広田重道専務理事を訪ねた。

様々な催し工夫

存についても幅広い市民の運動の重要性を常に強調されてきたことを思い出す。

それからの約六カ月は、何かなにやら記憶に残らないほどあつという間に過ぎ去った。

当時の夢の島は、正にゴミの島。展示館以外には清掃工場しか稼動しておらず、その他は全て造成中で、東京都の夢の島管理事務所はプレハブ

だったので、水溜りからはブクブクとメタンガスの泡が浮かび上がっていた。都営バスが新木場まで運行するようになったのはそれから四ヵ月後のこと

頭指揮のもと広報宣伝、研修活動に力を入れ、「福竜丸だより」の創刊、「ビキニ事件と福竜丸を知る集い」の年四回開催。二月末の「ビキニデー東京集会」。九月二三日の「久保山愛吉氏追悼集会」。一月一五日の「新春風揚げ大会」など、様々なイベントを行った。

見学者を増やすことに心を傾け

夢の島への社会科見学や遠足を小中高校の先生方に要請して回ることも重要な仕事のひとつだった。そのうち、少しずつ地元の小中学校の遠足や中高校等の団体見学が増えるようになった。中にはクラスの有志やサークルで見学に来館し、後日、文化祭でビキニ事件と福竜丸を研究発表したの

そして六月一〇日の展示館オープンの日、刷り上った真新しい僕の名刺の肩書きは「(財)第五福竜丸平和協会事務局長」となっていた。思うに、当時の平和協会は、原水協と原水禁の微妙なバランスの上に成り立っており、どちらの側であれ、ベテラン活動家が事務局長に就任することは望ましくなかったであろう。愛知から出てきてそれほど間がない一九歳の僕がうってつけだったのかもしれない。

そんな、よく言えば牧歌的な状態で、当初は来館者も、平日は三〇人もあれば喜び、日曜日でも「今日は凄い！一〇〇人を超えたよ」という

夢の島への社会科見学や遠足を小中高校の先生方に要請して回ることも重要な仕事のひとつだった。そのうち、少しずつ地元の小中学校の遠足や中高校等の団体見学が増えるようになった。中にはクラスの有志やサークルで見学に来館し、後日、文化祭でビキニ事件と福竜丸を研究発表したの

は、六年ほどで夢の島を離れたが、当時から考えられないほど多くなった来館者の耳に、第五福竜丸の鳴らし続ける警鐘の音が伝えられることが、憲法が危機に瀕し、この、きな臭い今、その事をしみじみと感じている。(第五福竜丸平和協会元事務局長。現在、長野県大町市在住・カフエギヤラリーベルヴィル・オーナー)

展示館の文字通り要石だった広田専務理事は、日頃から「真剣に核兵器廃絶を考えているのなら、禁だ協だ蜂の頭(彼の口癖)だと言っていたら駄目だ」とおっしゃっていた。原水爆の禁止も福竜丸保

平日は三〇人もあれば喜び、日曜日でも「今日は凄い！一〇〇人を超えたよ」というほどだったが、足の便を考えると、本当によく来て下さったと、頭が下がった。平和協会は、広田さんの陣

平和・労働・婦人・市民団体へも見学を要請して回った。こうして当時を回顧すると、懐かしい三宅泰雄会長、

2006年3・1ビキニ事件 記念のつどい

- * 2月18日(土) 14:00 - 16:30
- * 夢の島マリーナ会議室
- * 参加費 500円

第五福竜丸展示館 開館30周年記念の とりくみ

1. 特別展開催（6月初旬より3ヶ月を予定）

*「展示館30年のあゆみ展」、写真と解説で30年のあゆみをたどる一展示パネルと展示館の変遷・イベント資料や出版物等の特別展示。

*関連企画・特別展示「第五福竜丸船体大補修展」開館以来の大補修となった第五福竜丸船体修理（1985年1月～86年3月）の諸資料を初めて公開展示。文化財建造物保存協会・日塔和彦氏と船大工棟梁・横川廣氏の監修。福竜丸をどうして木造船の構造、建造技法などを展示する。船体の部材、船大工道具など現物資料展示。

2. 30周年記念誌発行

*展示館30年のあゆみをたどり展示館と第五福竜丸に関わられた方々の記録、資料を収録。

・<主な内容>東京ご挨拶、総説「30年のあゆみとこんにちの展示館」・年代を追って ①開館前史・保存運動と第五福竜丸平和協会の設立 ②開館から80年代末まで ③90年代からこんにちまで、見学者の感想文、座談会＝第五福竜丸の保存のとりくみ／展示館のあゆみとその役割、各界からのメッセージ、資料など

3. 開館記念日の記念行事

*開館30周年にあたる2006年6月10日（土）、記念イベントとしてNHKドキュメンタリー番組「廃船」上映とゲストトークの会

*記念レセプション（学士会館）

4. 記念コンサート

・2006年4月15日（土）

午後4時30分より6時30分

・会場 第五福竜丸展示館
・入場料3000円（予約制100名）

*林光さん作編曲による室内楽版「第五福竜丸」（新藤兼人監督映画『第五福竜丸』のテーマ音楽）。日本フィル弦楽四重奏団。ピアノ寺島陸也。ほかにモーツァルト、シューベルト、カザルスなどを演奏。

ボランティアの会 開館30年に新たな想い

第五福竜丸ボランティアの会は、昨年、発足以来5年目にはいり、小中高の学校見学（約450校）に加え近年増加している高齢者の団体（約200来館）にもお話をさせていただいた。

学習会は、05年の前半、「第五福竜丸の保存の歴史を学ぶ」をテーマに4回にわたり、「廃船」を伝えた品川の港湾分会の都職員、江東で保存にとりくんだ方がたや船体補修の船大工の棟梁と文化財保存の専門家などを招いて学習した。12月には被爆医師の肥田舜太郎さんを講師に被爆と心身の障害についてお話をうかがった。

夏休みには、画家の黒田征太郎さんの「ピカドン展」とあわせて、希望する小学生に「牛乳パックでつくる第五福竜丸」の工作指導をおこない、30名が参加した。久保山さんの命日9月23日には、展示館での平和の催しで、この日から始まった手紙展の手紙を朗読した。11月には研修旅行で大湊の強力造船所跡見学を実施した。

*

今年はより多くの来館者を迎え、ともに考えていきたいと願っている。ボランティアも新しいメンバーを増やしたい。高齢者が多いが、皆で健康に留意し明るく元気につとめたい。（世話人 遠藤昌樹）

見学者からのたより

第五福竜丸展示館内には、名前やメッセージを書くノートのほかに、アンケート用紙を置いています。「展示等についてのご感想・ご意見」を書く欄にたくさんの記述をいただいています。黒田征太郎の「PIKADON」展、「手紙」展では来館者自身がメッセージを発信するコーナーを設けたところイラスト500枚以上、「あなたからの手紙」約80通が寄せられました。一人一人の平和への心情・心象風景の一端を感じさせるものでした。

<たよりから>

◇日本史で戦争、原爆について学びました。私は今まで教科書にのっていることしか知りませんでした。知ろうともしませんでした。第五福竜丸の被災やその他の多くのことを教えてくれましたが、今日初めてここに来て、自分が学んだことがすべてではないと思ひ知りました。自らの眼で見て耳で聴く、自らの意思で考えること、今日学んだ一番のことです。（高校生 女性）

◇かなしい気持ちとかわいそうになった。泣きそうになった、かなしかった。せんそうはやめて、みんなやしぜんをまもっていけるのがいい。にほんがへいわになってほしい。よそのくにとなかよしになりたい。ばくだんでやられたかおがくやしそうだった。みんなといっしょになかよしにしたい。――これらは4歳～6歳の子どもの感想です。これだけの思いが感じられる第五福竜丸。平和を伝えていく大切な所だとあらためて感じました。（都内幼稚園教諭）

